

開催概況

日時：平成29年11月29日（水曜日）

午後7時00分から8時30分

会場：東京都医師会 2階講堂

参加人数：23人（うち傍聴者4人）

参加団体等

- 区市町村
- 地区医師会
- 在宅医
- 病院
- 病院協会
- 歯科医師会
- 薬剤師会
- 看護協会
- 介護支援専門員研究協議会
- 老人保健施設協会
- 保険者協議会

主な意見交換の内容

【在宅療養に関する地域の現状・課題等について】

- 在宅診療を専門に行う診療所と行わない診療所で二極化。
- 患者の医療依存度が高い場合、かかりつけ医だけで24時間体制の確保は困難。
- 在宅専門のクリニックが少ない。隣接区は多いため、患者が区外に流れている。
- 診療所間での連携が難しい。そのため、24時間体制確保が難しく、すぐに後方支援病院という流れになっている。
- 在宅専門医とかかりつけ医の連携も今後必要。
- 急変時の患者搬送手段が救急車しかない。
- 家族が救急車を呼び病院へ搬送等、看取りの困難さを痛感。
- 在宅医と訪問看護師の連携がまだ十分に取れていない。
- 独居や認知症の方など、関係者間の連携を取るのが難しい。
- 区民への在宅療養に関する普及啓発も必要。
- 医療と介護の意見交換の場を設けている。
- ほとんどの薬局が在宅をやっているが、小児在宅や無菌調剤、24時間体制について対応できる薬局は数件しかない。
- 老健も在宅に目を向けている。

【地域と病院の連携について】

- 病院の後方支援体制は充実している。
- 中小病院で急変患者の受入れを断ることは少なくなっているのではないかと。
- 独居でかかりつけ医がいない等、キーマン不在のケースが増え、退院時の調整が大変になった。
- 在宅専門のクリニックが区市町村単位ではなく、都単位で事業を行ってきており、退院調整の限られた時間の中で、対応が早くサービスが良いと感じ、利用してしまう退院調整担当の看護師がいる。
- 退院前カンファレンスにかかりつけ医（紹介医）も参加できれば連携が進むと考えられるが、実際に参加することは少ない。
- 病院の看護部長と訪問看護ステーション間の連絡会を開催しているが、医師も含めた連携会議や多職種で意見交換できる場が必要。
- 行政等が医療・介護に関する様々な取り組みを実施しているところもあり、ここ数年で医療と介護顔の見える関係が出来てきた。
- 医療と介護では、使用する言語が異なり、連携するには共通の言語が必要である。
- 医師が忙しく、ケアマネが連絡等を遠慮してしまう。